

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **08193146 A**

(43) Date of publication of application: **30.07.96**

(51) Int. Cl

C08L 7/00
C08L 9/00
/(C08L 7/00 , C08L 53:02), (C08L
9/00 , C08L 53:02)

(21) Application number: **07006565**

(22) Date of filing: **19.01.95**

(71) Applicant: **YOKOHAMA RUBBER CO**
LTD:THE

(72) Inventor: **KAWAMO TETSUJI**

(54) RUBBER COMPOSITION

(57) Abstract:

PURPOSE: To prepare a rubber compsn. which can enhance abrasion resistance while maintaining properties such as viscoelasticity.

CONSTITUTION: This rubber compsn. comprises: a blend of (i) NR and/or IR, (ii) SBR having a styrene content (St) of not more than 50wt.%, a 1,2-vinyl bond content (Vn) in the butadiene portion of not more than 80mol% and satisfying the relationship $Vn22St+30$, and (iii) an A-B type block copolymer comprising an SBR

block (A) having a styrene content (St) of 0 to 50wt.%, a butadiene content (Bd) of 50 to 100wt.%, a 1,2-vinyl bond content (Vn) in the butadiene portion of 5 to 70% and satisfying the relationship $Vn22St+30$, or a BR block (A) and an IR block (B) having a cis content of not less than 70wt.%, the block (A) to block (B) weight ratio being (20 to 80):(80 to 20), the content of the A-B type block copolymer being 2 to 20 pts.wt. based on 100 pts.wt. of the total amount of the components (i), (ii) and (iii).

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-193146

(43) 公開日 平成8年(1996)7月30日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 0 8 L 7/00	L B D			
9/00	L B F			
// (C 0 8 L 7/00				
53:02)				
(C 0 8 L 9/00				

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平7-6565

(22) 出願日 平成7年(1995)1月19日

(71) 出願人 000006714

横浜ゴム株式会社

東京都港区新橋5丁目36番11号

(72) 発明者 川面 哲司

神奈川県平塚市追分2番1号 横浜ゴム株式会社平塚製造所内

(74) 代理人 弁理士 石田 敬 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ゴム組成物

(57) 【要約】

【目的】 粘弾性特性などの特性を保持しながら、耐摩耗性を高めることができるゴム組成物を開発する。

【構成】 (i) NR及び／又はIR、(ii) スチレン含量 (S t) が50重量%以下、ブタジエン部分の1, 2 ビニル含量 (V n) が80モル%以下でかつ $V n \leq 2 S t + 30$ の関係を満足するSBR並びに(iii) スチレン含量 (S t) 0~50重量%及びブタジエン含量 (B d) 50~100重量%でブタジエン部分の1, 2-ビニル結合含量 (V n) が5~70モル%でかつ $V n \leq 2 S t + 30$ の関係を満足するSBRブロック (A) 又はBRブロック (A) と、シス含量が70重量%以上のIRブロック (B) とからなり、重量比で (A) / (B) が20~80/80~20のA-B型ブロック共重合体を配合して成り、A-B型ブロック共重合体の含量が成分 (i), (ii) 及び (iii) の合計量100重量部当り2~20重量部であるゴム組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (i) 天然ゴム及び／又はポリイソプレ
ンゴム、(ii) スチレン含量 (S t) が 50 重量%以
下、ブタジエン部分の 1, 2 ビニル含量 (V n) が 80
モル%以下でかつ $V n \leq 2 S t + 30$ の関係を満足する
スチレン-ブタジエン共重合体ゴム (S B R) 並びに(i
ii) スチレン含量 (S t) 0 ~ 50 重量%及びブタジ
エン含量 (B d) 50 ~ 100 重量%でブタジエン部分の
1, 2-ビニル結合含量 (V n) が 5 ~ 70 モル%でか
つ $V n \leq 2 S t + 30$ の関係を満足するポリ (スチレン
-ブタジエン) ブロック (A) 又はポリブタジエンブ
ロック (A) と、シス含量が 70 重量%以上のポリイソ
プレブロック (B) とからなり、重量比で (A) /
(B) が 20 ~ 80 / 80 ~ 20 の A-B 型ブロック共
重合体を配合して成り、A-B 型ブロック共重合体の含
量が成分 (i), (ii) 及び (iii) の合計量 100 重量
部当り 2 ~ 20 重量部であるゴム組成物。

【請求項 2】 A-B 型ブロック共重合体の分子量が 3
0, 000 以上である請求項 1 記載のゴム組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はゴム組成物に関し、更に
詳しくは天然ゴム (NR) 及び／又はポリイソプレ
ンゴム (IR) と、スチレン-ブタジエン共重合体ゴム (S
B R) とから成るゴム配合物にブタジエン又はブタジ
エン及びスチレンと、イソプレンとから成る A-B 型ブ
ロック共重合体を配合して成る、粘弾性特性などの NR
(IR) / S B R 系の特性を低下させることなく、耐摩
耗性を向上させることができる、例えばタイヤ用キャ
プトレッドなどに用いるのに有用なゴム組成物に関す
る。

【0002】

【従来の技術】 近年、自動車などのタイヤ用ゴム組成物
に対しては、各種性能の改善が求められており、そのた
めタイヤトレッド用ゴムその他において、複数のポリマ
ーをブレンドして使用することが行われているが、これ
らのポリマー同士が非相溶である場合、相分離界面が存
在する。多くの場合、この界面が破壊の起点となり引張
強さ、引裂強さ、耐摩耗性などに悪影響をあたえると考
えられる。しかしながら、従来、タイヤを始めとしたゴ
ム製品におけるゴム/ゴムブレンドの相分離界面の問題
は充分検討されておらず、この問題の解決方法も見だ
されていなかった。

【0003】 従来、ブロックポリマーを配合してポリマ
ーブレンドの非相溶性に基づく破壊強度の低下を実用的
に解決せんとする試みは認められず、天然ゴム (NR)
/ポリブタジエンゴム (BR) のブレンド系に、ポリブ
タジエン (BR) とポリイソプレン (IR) とのブロッ
ク共重合体を少量配合することが、J. A p p l y. P
o l y m. S c i., 49 (1993) 及び R C T. 6

6 (1993) に記載されているに過ぎない。しかしな
がら、これらの文献には、NR/BR ブレンド系にポリ
ブタジエンブロックを持ったブロックポリマーが検討さ
れているだけで、工業的に重要な NR/S B R ブレンド
系については記載されていない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 低燃費性能及びグリップ
性能と耐摩耗性を両立する手段として天然ゴムと溶液
重合 S B R をブレンドして使用することが一般的に行わ
れているが、これらを更なる高い次元で両立させること
は困難であった。しかしながら、耐摩耗性の更なる向上
によりトレッドゲージを薄くでき、延いては軽量化につ
ながることから昨今耐摩耗性向上要求が高まってきてい
る。従って、本発明は従来技術の問題点を排除して、粘
弾性特性などの NR (IR) / S B R 配合系の他の特性
を損なうことなく、耐摩耗性を高めることができるゴム
組成物を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明に従えば、(i)
天然ゴム及び／又はポリイソプレンゴム、(ii) スチ
レン含量 (S t) が 50 重量%以下、ブタジエン部分の
1, 2 ビニル含量 (V n) が 80 モル%以下でかつ $V n \leq 2 S t + 30$ の関係を満足するスチレン-ブタジ
エン共重合体ゴム (S B R) 並びに(iii) スチレン含量 (S
t) 0 ~ 50 重量%及びブタジエン含量 (B d) 50 ~
100 重量%でブタジエン部分の 1, 2-ビニル結合含
量 (V n) が 5 ~ 70 モル%でかつ $V n \leq 2 S t + 30$
の関係を満足するポリ (スチレン-ブタジエン) ブロッ
ク (A) 又はポリブタジエンブロック (A) と、シス含
量が 70 重量%以上のポリイソプレブロック (B) と
からなり、重量比で (A) / (B) が 20 ~ 80 / 80
~ 20 の A-B 型ブロック共重合体を配合して成り、A
-B 型ブロック共重合体の含量が成分 (i), (ii) 及
び (iii) の合計量 100 重量部当り 2 ~ 20 重量部であ
るゴム組成物が提供される。

【0006】

【作用】 本発明によれば、(i) NR 及び／又は IR 並
びに (ii) 特定の S B R のブレンド系に (iii) 特定のブ
ロック共重合体 (A-B) を配合することによって、グ
リップ性能、低燃費性能などの粘弾性特性を低下させる
ことなく、耐摩耗性を向上させることができる。

【0007】 本発明に係るゴム組成物に配合される NR
、IR 及び S B R は従来から各種ゴム用途にゴム成分
として一般に使用されている任意のポリマーとすること
ができ、NR/IR のブレンド比並びに (i) NR 及び
／又は IR / (ii) S B R 又は BR のブレンド比はゴム
組成物の用途に従って選定することができる。かかる選
定は当業者であれば適宜なし得るところであるが好まし
くは NR/IR 比は 100 / 0 ~ 50 / 50 とすること
ができ、(i) NR 及び／又は IR / (ii) S B R 又は

3

BR比は好ましくは80~20/20~80(重量部)、更に好ましくは75~25/25~75(重量部)である。なお、本発明で用いるSBR又はBRは一般的な溶液重合(又は乳化重合)で得られるもので、スチレン含量(S_t)が50重量%以下、好ましくは45重量%以下で、ブタジエン部分の1,2ビニル含量(V_n)が80モル%以下、好ましくは5~80モル%でかつ $V_n \leq 2S_t + 30$ の関係を満足するものである。

【0008】次に本発明によれば、上記ブレンド系に、特定のA-B型ブロック共重合体を配合することによって前記本発明の目的を達成することができ、このA-B型ブロック共重合体の配合量が少な過ぎると、所望の改良効果が得られず、逆に多過ぎると本来のゴム物性であるグリップ性能、低燃費性能などの粘弾性特性のバランスが失われるので好ましくない。かかる観点から本発明で用いるA-B型ブロック共重合体は全ポリマー成分(A-B型ブロック共重合体も含む)100重量部に対して、A-B型ブロック共重合体を2~20重量部、好ましくは5~18重量部配合する。

【0009】本発明で用いるA-B型ブロック共重合体はスチレン(S_t)及びブタジエン(B_d)共重合体又はブタジエン(B_d)重合体と、イソプレンから成り、ブロック成分A及びBのスチレン含量(S_t)及び1,2-ビニル結合(V_n)並びにA成分及びB成分の重量比率(A)/(B)は下記の通りである。

【0010】ブロックA

(a) スチレン含量50重量%以下、好ましくは1~45重量%、更に好ましくは5~45重量%(残部はブタジエン含量)で、ブタジエン部の1,2-ビニル結合含量(V_n):5~70モル%、好ましくは10~70モル%でかつ $V_n \leq 2S_t + 30$ (S_t:スチレン含量)のポリ(スチレン-ブタジエン)又は(b)1,2-ビニル結合含量が5~30モル%、好ましくは10~30モル%ポリブタジエン

【0011】ブロックB

シス含量が70重量%以上、好ましくは75重量%以上のポリイソプレン

【0012】(A)/(B)=20~80/80~20(重量部)、好ましくは30~70/70~30(重量部)

【0013】ブロック成分(A)(a)のスチレン含量が多過ぎると高シスBRと非相溶になるため目的の効果が得られなくなるので好ましくなく、1,2-ビニル結合含量が前記範囲外では高シスBRとの相溶性が不良になるので所望の効果が得られないので好ましくない。A-B型ブロック共重合体の配合量が2重量部未満では相溶化剤としての作用が十分でなく、耐摩耗性などの物性が改良されず、逆に20重量部を超えるとブロック共重合体自身の粘弾性特性が現れてくるので他の物性に影響

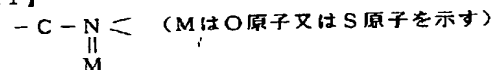
4

が出るので好ましくない。更に(A)/(B)比が前記範囲外ではマトリックスゴム(NR, SBR)との絡み合いが少なくなる、又は共架橋性が不充分となるためか、所望の効果が得られなくなる。

【0014】本発明において使用するA-B型ブロック共重合体は公知のポリマーであり、一般的にはブチルリチウムなどの有機アルカリ金属化合物触媒を用いてヘキサンなどの有機溶媒中で、例えばスチレン及びブタジエンと又はブタジエンを重合させてブロック(A)を製造し、末端リビング状態のこのブロックに更にイソプレンを添加してブロック(B)を製造するもので、この際に所望によりモノマー配合量比、ビニル化剤の添加、重合条件などを適宜選定して目的のブロック共重合体を得ることができる。さらに、このA-B型ブロックポリマー同志を例えば四塩化スズ、四塩化ケイ素などでカップリングさせても良い。また、別法として、これも常法に従って、ブロックAとブロックBとをそれぞれ調製し、これを例えば四塩化スズ、四塩化ケイ素などのカップリング剤を用いてカップリングさせることによって製造することもできる。なお、かかるA-B型ブロック共重合体は例えば環状アミン、

【0015】

【化1】



【0016】結合を有する化合物、例えばアミド化合物、イミド化合物、ラクタム化合物、尿素化合物などの変性剤で末端変性されていてもよく、かかる末端変性ブロックはA-B型ブロック共重合体の共重合完了後、リビング状態で適当な変性剤を添加することによって製造することができる。

【0017】本発明において配合するA-B型ブロック共重合体の分子量には特に限定はないがマトリックスゴム(NR(IR), SBR(BR))との絡み合い、又は共架橋性を考慮すれば、重量平均分子量30,000以上であるのが好ましく、50,000~800,000が更に好ましい。

【0018】本発明のゴム組成物には、必要に応じ、ゴム成分100重量部に対し、カーボンブラック10~100重量部、好ましくは20~90重量部及び/又はシリカ10~100重量部、好ましくは20~90重量部を配合することができる。カーボンブラック及びシリカとも従来ゴム組成物に一般的に配合されている任意のものを用いることができる。

【0019】本発明のゴム組成物には前記ポリマー分及び必要に応じてカーボンブラックや珪酸塩系填料に加えて、硫黄、加硫促進剤、老化防止剤、充填剤、軟化剤、可塑剤などの自動車タイヤ用その他のゴム組成物に一般に配合されている各種添加剤を配合することができ、か

5

かる配合物は一般的な方法で加硫することができる。これらの添加剤の配合量も一般的な量とすることができる。例えば、硫黄の配合量は100重量部当り1.2重量部以上、更に好ましくは1.5～3.0重量部とするのが好ましい。加硫条件も一般的な範囲である。

【0020】

【実施例】以下、実施例によって本発明を更に説明するが、本発明の範囲をこれらの実施例に限定するものでないことは言うまでもない。なお、以下の例における物性測定は下記方法で行った。

【0021】粘弾性特性：東洋精機製作所製粘弾性スペクトロメータを用い、静的歪み＝10%、動的歪み＝±2%、周波数＝20Hzで測定した（試料幅5mm，0℃，60℃）

【0022】耐摩耗性試験：ランボーン摩耗試験機を用

6

い、スリップ率25%、荷重5kgの条件で測定した。結果は比較例3（表I）及び比較例12（表II）の標準例のゴムを100とした指数（耐摩耗性指数）で示し、数字の大きいものが耐摩耗性が優れている。

【0023】実施例1～10及び比較例1～9

表Iに示す配合（重量部）の各成分を配合し、加硫促進剤と硫黄を除く原料ゴム及び配合剤を1.7リットルのパンバリミキサーで5分間混合した後、この混合物に加硫促進剤と硫黄とを8インチの試験用練りロール機で4分間混練し、ゴム組成物を得た。これらのゴム組成物を160℃で20分間プレス加硫して、目的とする試験片を調製し、各種試験を行い、その物性を測定した。得られた加硫物の物性は表Iに示す通りであった。

【0024】

【表1】

表I

	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8	実施例9	実施例10
天然ゴム ^{*1}	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
SBR ^{*2}	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
ブロッックポリマー ^{*3}	7	15	7	15	7	15	7	15	7	15
ブロッックポリマー ^{*4}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッックポリマー ^{*5}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッックポリマー ^{*6}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッックポリマー ^{*7}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッックポリマー ^{*8}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッックポリマー ^{*9}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッックポリマー ^{*10}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ^{*11}	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ^{*12}	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤 ^{*13}	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計 (PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弾性 tan δ	0.318	0.320	0.324	0.322	0.323	0.322	0.324	0.323	0.318	0.317
0℃	0.165	0.166	0.164	0.165	0.163	0.166	0.165	0.165	0.162	0.162
60℃										
耐摩耗性指数	107	109	109	112	107	108	106	107	106	107

- ^{*1} TTR-20
^{*2} NS114: SI=25重量%, Vn=35モル% (日本ゼオン株式会社製)
^{*3} シースト (Seast) KH (東海カーボン株式会社製)
^{*4} ~^{*11} ブロッックポリマー (表III参照)
^{*12} サントフレックス (Santoflex) 13 (Monsanto社製)
^{*13} サントキュア (Santocure) NS (Monsanto社製)

【0025】

【表2】

表I (続き)

	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	比較例5	比較例6	比較例7	比較例8	比較例9
天然ゴム ^{*1}	100	70	50	30	—	46.5	42.5	42.5	42.5
SBR ^{*2}	—	30	50	70	100	46.5	42.5	42.5	42.5
ブロッケンポリマー ^{*3}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッケンポリマー ^{*4}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッケンポリマー ^{*5}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッケンポリマー ^{*6}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッケンポリマー ^{*7}	—	—	—	—	—	7	15	15	15
ブロッケンポリマー ^{*8}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッケンポリマー ^{*9}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロッケンポリマー ^{*10}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ^{*11}	50	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ^{*12}	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤 ^{*13}	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計 (PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弾性 tan δ									
0°C	0.279	0.306	0.322	0.331	0.337	0.324	0.323	0.322	0.320
60°C	0.171	0.169	0.165	0.161	0.143	0.166	0.166	0.167	0.166
磨耗性指数	110	103	100	98	97	98	97	100	101

*1 TTR-20
 *2 NS114; St=25重量%, Vn=35モル% (日本ゼオン株式会社製)
 *3 シースト (Seast) 101 (東海カーボン株式会社製)
 *4 ~*11 ブロッケンポリマー (表III参照)
 *12 サントフレックス (Santoflex) 13 (Monsanto社製)
 *13 サントキュア (Santocure) NS (Monsanto社製)
 *14 標準例

【0026】実施例11~18及び比較例10~18

実施例1~10及び比較例1~9において、SBRの種類を代えた以外は同様にして実験を繰り返した。用いた

配合及び得られた結果を表IIに示す。

【0027】

【表3】

表Ⅱ

	実施例11	実施例12	実施例13	実施例14	実施例15	実施例16	実施例17	実施例18
天然ゴム ^{*1}	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
SBR ^{*2}	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
ブロックポリマー1 ^{*3}	7	15	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー2 ^{*4}	—	—	7	15	—	—	—	—
ブロックポリマー3 ^{*5}	—	—	—	—	7	15	—	—
ブロックポリマー4 ^{*6}	—	—	—	—	—	—	7	15
ブロックポリマー5 ^{*7}	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー6 ^{*8}	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー7 ^{*9}	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー8 ^{*10}	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ^{*11}	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ^{*12}	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤 ^{*13}	1	1	1	1	1	1	1	1
合 計 (PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弾性 tan δ								
0℃	0.509	0.510	0.507	0.508	0.509	0.512	0.509	0.510
60℃	0.160	0.161	0.158	0.158	0.156	0.158	0.158	0.159
耐摩耗性指数	107	108	107	110	109	111	107	107

*1 TTR-20

*2 NS116: St=20重量%, Vn=65モル% (日本ゼオン株式会社製)

*3 シースト(Seast)KH (東海カーボン株式会社製)

*4~*11 ブロックポリマー (表Ⅲ参照)

*12 サントフレックス(Santoflex)13 (Monsanto社製)

*13 サントキュア(Santocure)NS (Monsanto社製)

【0028】

【表4】

表Ⅱ (続き)

	比較例10	比較例11	比較例12	比較例13	比較例14	比較例15	比較例16	比較例17	比較例18
天然ゴム ^{*1}	100	75	50	25	—	46.5	42.5	42.5	42.5
SBR ^{*2}	—	25	50	75	100	46.5	42.5	42.5	42.5
ブロックポリマー ^{*3}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{*4}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{*5}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{*6}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{*7}	—	—	—	—	—	7	15	15	15
ブロックポリマー ^{*8}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{*9}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{*10}	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ^{*11}	50	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ^{*12}	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤 ^{*13}	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計 (PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弾性 tanδ	0.271	0.384	0.507	0.661	0.989	0.508	0.510	0.502	0.506
0℃	0.156	0.161	0.158	0.158	0.158	0.160	0.160	0.157	0.158
60℃									
耐摩耗性指数	118	102	100	96	94	97	98	101	100

^{*1} TTR-20
^{*2} NS116: SI=20重量%, Vn=65モル% (日本ゼオン株式会社製)
^{*3} シースト(Seast)KH (東海カーボン株式会社製)
^{*4} ~^{*11} ブロックポリマー (表Ⅲ参照)
^{*12} サントフレックス(Santoflex)13 (Monsanto社製)
^{*13} サントキュア(Santocure)NS (Monsanto社製)
^{*14} 標準例

【0029】

【表5】

表Ⅲ

		ブロック A		ブロック B	A/B	重量平均 分子 量 (万)	カップリング 有無
		St 量 (重量%)	Vn 量 (モル%)	cis 量 (重量%)	重量比		
ブロックポリマー 1 [※]	実施例	23	35	82	50/50	35	無し
ブロックポリマー 2 [※]	実施例	23	35	82	50/50	81	Sn
ブロックポリマー 3 [※]	実施例	35	50	85	50/50	43	無し
ブロックポリマー 4 [※]	実施例	28	57	85	50/50	42	無し
ブロックポリマー 5 [※]	比較例	23	35	52	50/50	40	無し
ブロックポリマー 6 [※]	比較例	12	62	84	50/50	44	無し
ブロックポリマー 7 [※]	比較例	0	55	86	50/50	40	無し
ブロックポリマー 8 ^{※10}	実施例	0	18	84	50/50	41	無し

【0030】

【発明の効果】以上、説明したように、本発明に従えば、粘弾性特性を損なうことなく、耐摩耗性（表 I 及び

II の耐摩耗性指数が大きいほど良好）に優れたゴム組成物を得ることができる。

フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁶
C 08 L 53:02)

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所